

05 齋場御嶽

せーふあうたき

琉球王国の国家的な祭祀が行われた聖地

齋場御嶽は岩山と森に囲まれた琉球王国最高の聖地であり、複数の聖域（イビ）からなっています。琉球王国時代において、祭祀をつかさどる神女組織の最高位に聞得大君きこえおきみがいました。聞得大君は齋場御嶽で行われる「御新下り」と呼ばれる儀式を経て、新たに就任します。首里を出てこの地を訪れた神女たち一行は、御嶽内のイビで祈りを捧げます。そして最終的には新たな聞得大君に神からセジ（霊力）が与えられ、神女の最高位としての資格を得るのです。

御新下りがとり行われていた大庫理。首里城内にも同じ名前の場所があります



齋場御嶽のここが面白い！

齋場御嶽の中心、三庫理さんくーりの象徴は、天然の石灰岩が倒れ掛かるように形成した三角形の入り口です。その形状は迫力に満ち、しかも神秘的でもあります。そこをくぐると、久高島が遠望できます。信仰上の造形物は何もなく、素朴な形の香炉が置いてあるだけではありますが、これらの場所で神女たちは祈りを捧げ、王国の安泰を願ったのです。



DATA

緑の館・セーフア

沖縄県南城市知念字久手堅 270-1 ☎ 098-949-1899 開館時間：3月～10月 9:00～18:00（最終入館 17:30）、11月～2月 9:00～17:30（最終入館 17:00）※チケット販売は最終入館の15分前まで 休館日：2019年10月28日～30日、2020年6月21日～23日、2020年11月15日～17日（毎年2回旧暦5月1日～3日、旧暦10月1日～3日）入館料：大人300円、小・中学生150円 チケット販売所：南城市地域産物館（南城市知念字久手堅539）案内ガイド：定時ガイド（土日祝限定・1日9回）1名（高校生以上）300円 予約ガイド1～10名様まで2,000円（所要時間約50分）



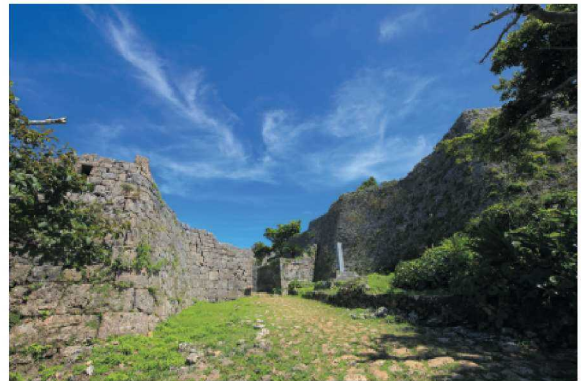


06 なかぐすく 中城城跡

ペリー艦隊も驚嘆した築城技術の高さ

もともとあった古いグスク（城）を、15世紀の英雄、護佐丸が増築して築城しました。廓の構成や城門の形式、そして石積みなどの技法などでグスクを代表する名城だと評価されています。娘を首里城の王に嫁がせるなど護佐丸は王家と親しい関係にありましたが、謀反の疑いをかけられたために自決したと伝えられています。彼の子孫は毛氏と呼ばれ、後に首里城の王に仕える名門となりました。また、18世紀初期に創作された琉球の演劇「組踊」の題材ともなり、忠臣＝護佐丸のイメージが広がりました。

南西に向かって建つ表門（正門）。表門を入ると南の郭（首里遙拝所）があります



中城城跡のここがおもしろい!!

1853年から翌年にかけて、アメリカのペリー艦隊は頻りに琉球に来航しました。ペリー提督は調査隊を派遣して情報収集を行い、中城城跡の測量も行わせました。石灰岩を巧みに積み上げたその築城技術の高さに驚嘆したことが報告書に記されています。沖縄の各地に残るグスクの中で中城城跡は最も保存状態が良く、琉球石造技術の粋とその魅力を知る格好のスポットとなっています。



DATA

中城城跡共同管理協議会

沖縄県北中城村字大城 503 ☎ 098-935-5719 観覧時間：5月～9月 8:30～18:00、10月～4月 8:30～17:00 休園日：無休 観覧料：大人 400円、中・高校生 300円、小学生 200円

案内ガイド：ボランティアガイド「グスクの会」による城跡内の無料案内あり（所要時間約1時間）

※10日前までに要予約





07 かつれん 勝連城跡

琉球の天下人を夢見た阿麻和利の跡 あまわり

15世紀初期には沖縄本島中部の有力なグスクとして繁栄していました。発掘調査の結果、中国や日本などの遺物が数多く見つかっており、瓦葺の建物があったことも確認されていることから、貿易を活発に行っていたことが伺えます。「肝高」の別称があり、優れた霊力が満ちる場所、という意味があります。このグスクに君臨した有名な人物が阿麻和利で、首里城を制圧して琉球の覇権を手に入れようと動きました。しかし、1458年に首里王府軍に攻められ、落城したと伝えられています。阿麻和利の落城以降は荒れ果てていましたが、城壁が復元され往時の姿を取り戻しています。

中国や東南アジア、大和の陶磁器類や古銭、銅製品などが大量に出土しています



勝連城跡のここがおもしろい！

阿麻和利時代の栄華を伝える神歌（オモロ）に、勝連グスクは太陽と月に向かって城門を開き、日本の京都や鎌倉に並ぶほどの繁栄を謳歌している、とうたわれています。また、城主の阿麻和利は、民衆に愛される徳の高い人物だとも讃えられています。グスクの最も高い場所（一の曲輪）に立つと、360度のパノラマが広がっています。天下人を夢見た阿麻和利も、同じ風景を眺めていたのでしょう。



DATA

勝連城跡休憩所

沖縄県うるま市勝連南風原 3908 ☎ 098-978-7373

観覧時間：9:00～18:00 休園日：無休 観覧料：無料

案内ガイド：☎ 070-3800-9976 料金 1人～5人 3,000円、6人～10人 4,000円（所要時間最短 1時間）

※ 1週間前までに要予約





08 座喜味城跡

護佐丸が築いた沖縄最古のアーチ門をもつグスク

15世紀の英雄、護佐丸が築いたグスク(城)として知られています。伝承によると、護佐丸はそれ以前の居城であった山田グスクからこの地に移転しましたが、その際に山田グスクの城壁を解体し、その石を運ばせて城を築いたといわれます。発掘調査の結果、地中を掘り下げて基礎石を置き、その上に城壁を積み上げる工法がとられていたことが分かりました。護佐丸がこの城を利用したのは短期間であり、その後に拠点の中城グスクに移転しています。城跡から望む東シナ海は雄大で美しい風景が広がります。

要塞としてのグスクの機能美と素晴らしい眺めが特徴的



座喜味城跡のここがおもしろい!!

沖縄のグスクは、琉球石灰岩の丘陵を巧みに利用して築かれているのが一般的です。それに比べると、座喜味グスクの立地は特異であり、土の丘陵という弱い地盤の上に築かれています。この弱点を補うために、城郭の組み合わせに工夫を加え、城壁そのものの幅を厚くすることによって強度を高めたと考えられます。城内に入るアーチ門は琉球最古の城門として知られており、その後のグスク建築のモデルになったと評価されています。



DATA

座喜味城跡
 沖縄県読谷村字座喜味 708-6 ☎ 098-958-3141 (ゆんたんどミュージアム)
 休園日：無休
 観覧料：無料





09 な き じ ん 今帰仁城跡

北山王たちの繁栄の跡

今帰仁グスクは沖縄本島の北部を支配した北山の拠点でした。北山王は中国（明朝）と交流していたばかりでなく、東南アジアルートともつながっていたことが発掘調査により明らかになっています。明朝の記録には3名の王の名が登場し、栄華を極めていました。しかし、はんあんち北山王だった1416年、中山の軍勢の攻撃を受け、落城しました。攀安知は城の守り神である御嶽のうたき灵石を刀で切り、自害したという伝説が残っています。中山はこの城に北山監守を常駐させ、北部統治を強化しました。



今帰仁城の正門「平部門」。両側に外を見張るための覗き窓（隙間）があります

今帰仁城跡のここが面白い！

沖縄本島の中中部や南部のグスクの城壁は、琉球石灰岩と呼ばれる石を加工して積まれています。ところが、今帰仁グスクの城壁に使われているのは古期石灰岩と呼ばれる石で、琉球石灰岩に比べると固いのが特徴です。その結果、今帰仁グスクの城壁は荒々しい印象を受けます。しかし、その固さ、荒々しさを和らげるように城郭全体は美しい曲線で構成され、独自の魅力を発揮しています。保存状態の良いグスクの1つです。



DATA

今帰仁城跡管理事務所
沖縄県今帰仁村字今泊 5101 ☎ 0980-56-4400
今帰仁城跡・今帰仁村歴史文化センター（時間・チケットとも共通） 開所時間：1月～4月・9月～12月 8:00～18:00（最終入場 17:30）、5月～8月 8:00～19:00（最終入場 18:30）無休 観覧料：大人 400円、小中学生 300円、小学生未満無料 案内ガイド：当日のガイド依頼は無料（個人、グループ対象）、予約の場合は有料（予約協力金）で4名までなら1名 500円、5名以上は1グループ 2,500円



琉球歴史ロマン探訪

A 琉球の英雄とグスクの魅力を辿る



今帰仁城跡 → P12

座喜味城跡 → P11

勝連城跡 → P10

中城城跡 → P09

世界遺産に登録された今帰仁・座喜味・勝連・中城の各グスクを北から南に辿りたい。各グスクは、丘上の地形を生かしながら、巧みに城壁をめぐるしています。城壁の積み方も巧みであり、沖縄の石造技術がすでに15世紀には高いレベルにあったことを教えています。このようなグスクを築造するためには技術者集団が不可欠であり、また、大勢の人員を動員できるだけの権力が必要でした。北山王や有力な按司である護佐丸、阿麻利利はそれを成し遂げるだけの勢力を保持していたのです。しかも、今帰仁・座喜味・勝連・中城の各グスクの地中からは、中国や日本、東南アジアで生産された遺物が出土していて、海外につながる交流ルートを築いていたことも分かっています。その栄華を、やがて首里城が一手に引き取ったのです。

B 琉球王国の輝きを辿る



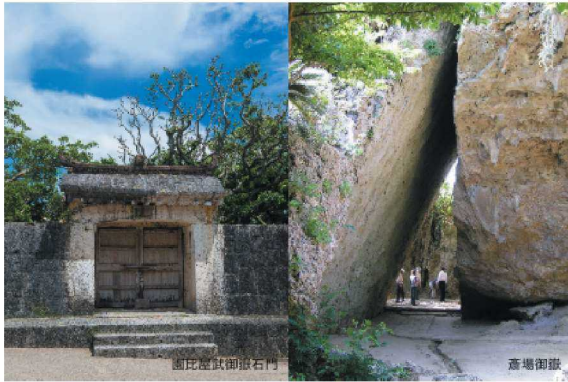
首里城跡 → P03

玉陵 → P06

識名園 → P07

グスクの頂点に立ち、琉球王国の拠点となった首里城（首里グスク）は琉球石灰岩の台地に立地します。高台にあるため生活用水の確保が困難だったのではないかと思うかもしれませんが、城内そして城外にも天然の湧き水が豊富に存在しています。城下町の首里では、現在でもこの水を利用して銘酒泡盛が製造されています。城の周囲には日本から導入した仏教（臨済宗）の寺院や、人工池である龍潭が設けられていました。王家の墓、玉陵は首里城にアクセスするメインストリート「綾門大道」沿い^{あやじょうふみち}にあり、その周辺には次の王となる人物の屋敷「中城御殿」^{なかがすくどうん}（現在は首里高校）がありました。郊外には王や王家の人びとが憩うための別邸、識名園^{しきなうら}や御茶屋御殿もありました。

C 琉球王国の祈りの世界を巡る



園比屋武御嶽石門 → P05

斎場御嶽 → P08

首里城は祈りの場所でもあり、城内に多くの御嶽がありました。祈りのスポットである御嶽の大半は「京の内」に集中しており、その場所は儀式を司る神女以外の者が入ることはできませんでした。復元された首里城においては、「百人御物参」と呼ばれる再現イベントが、神女に扮した女性たちによって行われています。城外には園比屋武御嶽石門があり、その後方の森（現在は小学校）に降臨する神々に向かい、祈りを捧げる場所でした。首里の東方には、斎場御嶽があります。琉球の開びやく神話にまつわる御嶽であり、また王国の神女組織の最高位である聞得大君の就任儀礼「御新下り」が行われました。現在でも、県内外から多くの方が祈りに訪れています。

イベントインフォメーション

1月	<ul style="list-style-type: none"> 首里城跡 新春の宴 (1/1・1/2) 中城城跡 初日の出観覧 中城城跡 満開の花で彩る中城城跡 今帰仁城跡 今帰仁グスク桜まつり (~2月上旬) 
3月	<ul style="list-style-type: none"> 座喜味城跡 座喜味城跡ライトアップ 首里城跡 百人御物参 
9月	<ul style="list-style-type: none"> 首里城跡 中秋の宴 
10月	<ul style="list-style-type: none"> 中城城跡 中城護佐丸まつり 首里城跡 首里城祭  <ul style="list-style-type: none"> 座喜味城跡 座喜味城通りふれあい祭り 座喜味城跡 ライトアップ
11月	<ul style="list-style-type: none"> 首里城跡 首里城祭 識名園 世界遺産で遊ぶ友遊会 中城城跡 プロジェクションマッピング ~音と光で蘇る護佐丸伝説~
12月	<ul style="list-style-type: none"> 中城城跡 わかてだを見る集い 中城城跡 ツワブキまつり



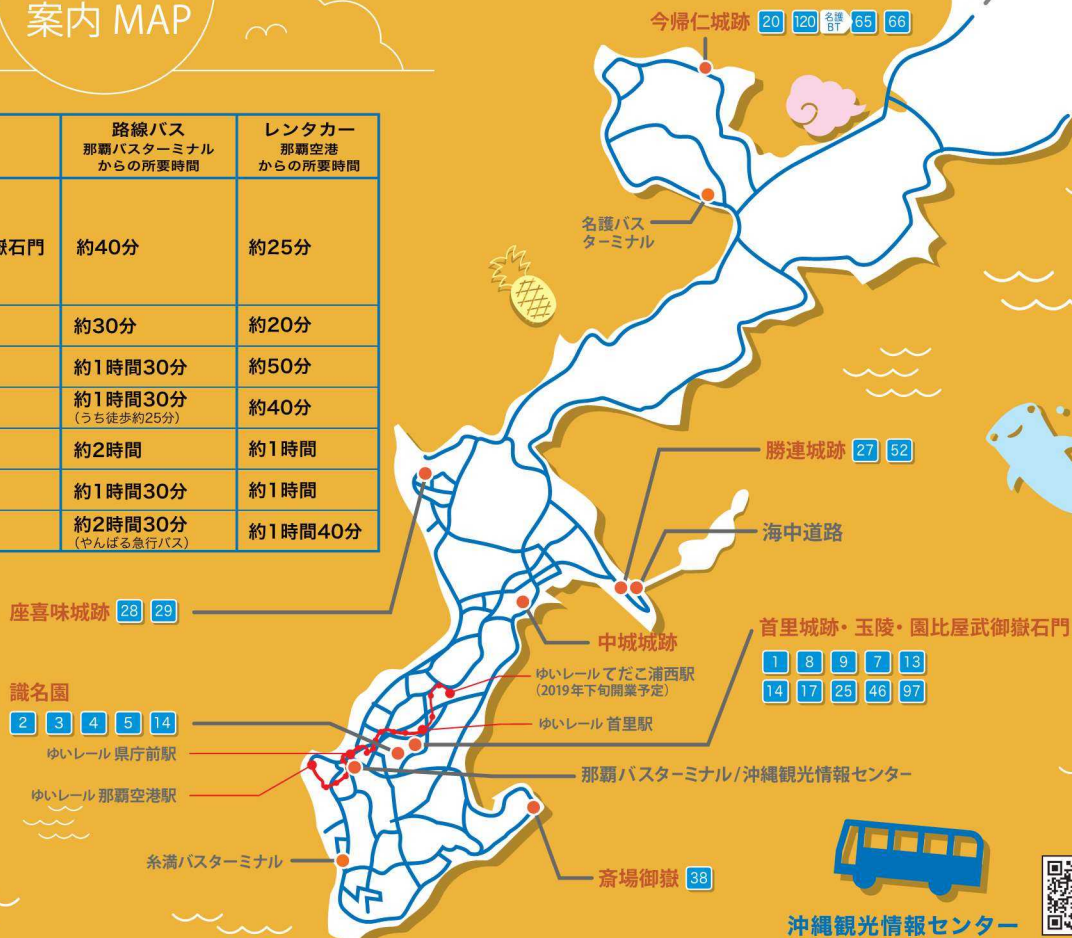
主要観光地 バス路線 案内 MAP

00 路線番号 BT 乗換バスターミナル 主要バス路線 ゆいレール

※地図上の路線番号は、その主要観光地の最寄りのバス停を通る路線です。

※バス停名ではありませんのでご注意ください。

	路線バス 那覇バスターミナル からの所要時間	レンタカー 那覇空港 からの所要時間
首里城跡 園比屋武御嶽石門 玉陵	約40分	約25分
識名園	約30分	約20分
斎場御嶽	約1時間30分	約50分
中城城跡 (うち徒歩約25分)	約1時間30分	約40分
勝連城跡	約2時間	約1時間
座喜味城跡	約1時間30分	約1時間
今帰仁城跡 (やんばる急行バス)	約2時間30分	約1時間40分



「琉球王国のグスク及び関連遺産群」

世界文化遺産登録 20周年記念 スタンプラリー

期間：2019年10月1日～2020年3月1日

世界遺産を巡って

オリジナルトートバッグをゲットしよう！

5か所以上を巡り、アンケートに答えると那覇空港観光案内所(1F)、那覇バスターミナル内沖縄観光情報センター、首里城公園(首里杜館)にてオリジナルトートバッグをプレゼント！

実施期間中に世界文化遺産を巡り、パンフレットの台紙にスタンプを集めてください。また、QRコードのリンクからも参加が可能です。

プレゼントは1人1個まで。先着1,000名様ですのでご了承ください。



本誌掲載の情報はすべて2019年8月時点のものです